

<vol. 134 の 主な記事>

報告① 3/18 地域スポーツシンポジウム

「市民×行政×企業×学校」

報告② 親子キャッチボール



今までで一番楽しいシンポジウムと好評！

3/18 (日) 13 時半から、さいたま共済会館において地域スポーツシンポジウム「市民×行政×企業×学校」を開催しました。

◎ 震災を機に新しい社会をスポーツから！

基調講演の1人目は塩竈FC 理事長の小幡忠義さん。

宮城県塩竈市で東北有数の強豪チームをつくり、Jリーガーを何人も輩出してきた小幡さんからは、震災を経てスポーツがどのような価値を持ち、どのような方向に進むべきかをお話いただきました。



3.11 の津波の映像をもとに、どんなことが起きたのかをお話いただきました。大混乱の中でも、全国のスポーツでつながる仲間が支援物資を塩竈に届け、そこから地域や、さらには周辺のクラブに支援物資の分配を行ってきたこと、このようなネットワークは、単に勝ち負けにこだわるチームづくりをしていたのでは実現しなかった、人づくりに力をいれてきた結果であるとお話でした。

小幡さんは、ドイツのスポーツクラブの視察において、第二次世界大戦からの復興において、ドイツが国民の健全な心と肉体を育むことを目的として、スポーツクラブづくりを国として推進してきたことに衝撃を受け、これからの日本もこのようなことを進めなければと思いながら活動してきたそうです。

自分が好きなスポーツをとおして、より良い社会を残していくためには、子ども達がいろいろなスポーツをできる環境をつくり、各種目が助け合いながら活動していくことが重要であり、さらには、こういった活動を特定の企業や学校、行政に頼るのではなく、地域全体で支えていく仕組みを作りが必要なることを説かれました。

神戸大震災の後にNPOの設立が推進されたように、大きな災害の後には社会の仕組みが変わってきており、この大震災を機に、日本のプロスポーツを変える、国内のスポーツの構造を大きく変えていくことが、これからの日本のスポーツの健全化のためには必要であり、そのチャンスなのだから、頑張りたい、夢を実現させたい、と熱い熱い想いをお話いただきました。

◎ 連携から融合へ

基調講演の2人目は、石川県かほく市のクラブパレットGM (ゼネラルマネジャー) 榎敏弘さん。



中学校の教員であり、全国大会の常連である剣道部の顧問として猛烈な指導をしてきたにも関わらず、成績の落ちてきた事実と直面する中で、ある方から「お前の顔は般若のようだ」と言われ大きな衝撃を受け、指導方針を考え直し、生徒主体の活動に切り替えたそうです。猛烈指導で育てた子ども達の多くが、バーンアウト(燃え尽き症候群)を起こしてしまったことも、指導方針を変えたきっかけとなったそうです。

その後、県庁のスポーツ振興の部署に移動し、社会スポーツ振興に携わる中で、地域の一市民としてクラブをつくらうと考え、いろいろな組織に一人ずつ説明にいき「宇ノ気町のスポーツを考える会」「青年ルネッサンス講座」「ワーキンググループ」の3つの組織を立ち上げ、町の名士から、若者まで地域のいろいろな方の参加を求め、クラブづくりにむけた組織づくりを展開されてきたそうです。

榎さんのクラブづくりの方針は、事務局をしっかりとつくり、女性や若者を大切に、クラブ内の人間関係は「フリー・フラット・オープン」・・・そのようなクラブづくりを心掛けているそうです。

また、民間のスポーツクラブと地域スポーツクラブの違いについて、民間スポーツクラブはお客さん(会員)が良ければいい、しかし、地域スポーツクラブは「地域」が良くなることをミッションとして持っているということをお話いただきました。

このようなクラブづくりを進めながら、中学校新設の話にあわせて、地域を学校の中に入れることを提案し、実現させてこられたそうです。

そこでわかったことは、地域と学校、学校とクラブの関係は、やればやるほど作業が増えていく”連携”ではなく、“融合”が必要であり、そのためには、対話によって想いを共有していくこと、夢を語り続けること、人と人がつながっていくことが大切であることだそうです。

◎ 絆づくりの核に地域スポーツクラブを！

清水はやと市長が、お見えになり、ご挨拶をいただきました。

地域スポーツクラブは、地域の絆づくりの核として大いに期待されていること、さいたま市が進めるスポーツの盛んな都市としてのブランディング戦略を実現する担い手として地域スポーツクラブへの期待が大きいことなどをお話しいたしました。



◎ 元気な地域づくりは、自分が元気になること！！

パネルディスカッションでは、浦和区領家2丁目自治会長高岡さん、埼玉中央青年会議所副理事長の星野さん、前桜区長の都倉さんにご参加いただき、地域の元気づくりの方策について話し合いました。



高岡さん： 中高齢者の健康な暮らしを実現していくことが重要な課題であり、そのためには、地域のいろいろな主体と融合し市内のモデルとも言えるような活動を展開してアピールしていきたい！

星野さん： 地域のコミュニケーションが不足しているのが、現代社会の大きな問題。元気づくりは、地域のコミュニケーションを良くすることから！そのためにもいろいろな団体と連携していきたい！地域で子どもを育てよう！

都倉さん： 元気づくりには、地域スポーツクラブは適している。そのためには場所の確保や、地域住民の理解を得ることが必要。してくれる人には、どんどんしてもらおう環境をつくるのが大切。

榎さん： 元気なまちにしたければ、自分が元気になればいい。「しなければいけない」ではなく「したい！」と思うこと、そして「これならできる！」「していこう！」にしよう。

小幡さん： 解決したい問題がたくさんある。それに取り組むことが自分の元気の源。行政や企業を頼らず、自分が楽しむこと、子どもが楽しめること。言われたことしかできない子どもではなく、自分から新しいことをできる「天然者」を育てること。どこかで成功例をつくろう！

3/18 親子キャッチボール

3月18日(日) 午後に、浦和高校グラウンドをお借りして、親子キャッチボール教室を開催しました。



およそ50組100名の参加を得て、伊藤博一先生に真下投げを教えてくださいました。

★速報 U18 彩の国カップ 対アルディージャ

3/22(木) 彩の国カップ2回戦 大宮アルディージャ U18戦が、堀崎公園において行われました。

浦和SC 0-16 大宮アルディージャ

大量得点をとられ敗戦しました。チームを結成して間もない浦和SCにとって、国内トップクラスのJ下部組織と戦う貴重な経験を積んだことと思います。



～クラブ職員 川下君 新たな旅立ち！～

2008年からサッカー広場のコーチになり、2009年からクラブ職員として活躍してきた川下修平君が、4月末をもって退職します。

約3年間にわたり、サッカー広場を中心に担当し、このほかユースのサポートや、のびのび体操広場のサポートなど、スーパーシニアサッカー広場のサポートなども含めて、広く活躍してくださいました。

新しい世界でのチャレンジにむけてエールを送りたいと思います。

おつかれさまでした！

クラブからの情報発信ツール

facebook では、クラブの昔の写真を公表しています。タイムラインをたどってみてください。

- クラブニュース：過去のニュースはWEBに掲載
- スタッフブログ：<http://ameblo.jp/urawa-sc/>
- ユース連絡ブログ：<http://ameblo.jp/urawascgami/>
- facebook：<http://www.facebook.com/urawasc>

- メルマガも配信始めました：
無料です
細かい登録は必要ありません
携帯からも簡単登録。



子どものスポーツ支援プロジェクト2月分は、

¥104,800—

をプロジェクトに送金いたしました。ご協力ありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。



2011年度、浦和スポーツクラブは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。